

平成30年第1回北海道議会定例会 予算特別委員会 補正集中審議 開催状況
(経済部産業振興局産業振興課)

開催年月日 平成30年3月9日
質問者 日本共産党 真下 紀子 委員
答弁者 経済部長、産業振興局長

質 問 要 旨	答 弁 要 旨
<p>四 苫小牧東部地域開発出資特別会計及び石狩湾新港地域開発出資特別会計について</p> <p>(一) 一般会計からの借入金について (真下委員) 苫東特会及び石狩特会においては、起債償還のための財源が株主還元だけでは不足するため、毎年、一般会計からの借入が生じております。2017年度も、それぞれ、2億8千万円、1億3千万円の借入れが生じておまして、累積額は苫東特会で77億円、石狩特会で22億円、合計で99億円にもぼっているところまで来ています。その要因について、道としてはどのように認識されているのか、伺います。</p> <p>(真下委員) 厳しい道財政からのすねかじり構造になっているということ。これが脱却できていない状況なんですね。</p> <p>(二) 今後の対応について (真下委員) 昨年、我が会派の質問に対して、道は、苫東・石狩とも、多額の貸付金の発生に対処するため、開発の核となるプロジェクトの導入や、食やエネルギー、自動車関連などの企業誘致に取り組むとお答えになっておりましたが、これらの成果はあったのかどうか伺います。また、今後、分譲が進まなければ、これまで以上に負担が生じる可能性があります。道民の負担にこれは他ならない訳です。道も大変財政が厳しい中での実態をどの様に認識し、この両特会においてどのように対応しようとしているのか、伺います。</p> <p>(真下委員) 需要予測を過剰に想定した失策のつけがいつまでも道民に押しつけられているという構造です。ですから毎年申し上げておりますけれども、この案件については、とうてい賛成できないと申し上げて私の質問を終わります。ありがとうございます。</p>	<p>(産業振興局長) 一般会計からの借入金についてでございますが、株式会社苫東の設立時及び石狩開発株式会社の民事再生時に道は、金融機関からの借入金によって両会社に対し出資を行っており、両会社の土地分譲による利益等を株主還元金として受け入れ、金融機関に対する償還財源として積立を行うこととしてございますが、株主還元額が起債償還のための必要額に満たなかったため、一般会計から借入れを行い、その不足分に充当しているところでございます。</p> <p>この間、国の厳しい財政事情などから大型プロジェクトの導入が進展していないことや、景気後退による企業の立地が低迷し、土地の分譲が遅れ、予定の還元額を確保できなかったことから、その不足を補うため、一般会計からの借入が続いてきたものでございます。以上でございます。</p> <p>(経済部長) 今後の対応等についてでございますが、道といたしましては、苫東と石狩の両特別会計に対する一般会計からの貸付を可能な限り圧縮していくことは、重要な課題であると認識をいたしているところでございます。</p> <p>これまでも、道内外でのセミナーの開催や、知事のトップセールス、立地可能性のある企業への重点的な訪問などによりまして、積極的な企業誘致に取り組んできているところであり、こうした取組を通じ、最近では、石狩湾新港地域におきましては、今後市場の拡大が大きく期待される環境配慮型のデータセンターやエネルギー関連施設、また、苫東地域におきましては、メガソーラーや植物工場などの新たな企業立地の動きも見られてきているところでございます。</p> <p>道といたしましては、今後とも国に対し、港湾等の産業基盤の整備促進や開発の核となる大型プロジェクトの導入を強く働きかけるとともに、関係機関と連携をいたしまして、成長が期待される食やエネルギー、自動車関連分野など、両地域の特色を活かした企業誘致に積極的に取り組んでまいりたいと考えてございます。以上でございます。</p>